

1 . 評価結果概要表

作成日 平成 21年 12月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	0171600281		
法人名	有限会社 四海堂		
事業所名	グループホーム おだやか		
所在地	檜山郡上ノ国町字上ノ国274番地の1 (電 話) 0139-55-3117		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年12月21日	評価確定日	平成22年1月15日

【情報提供票より】(21年 12月 7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 10人、 非常勤 6人、 常勤換算 5.4人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1 階建ての	~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費:15,000 円
敷 金	有(円)	無	暖房費:5,000 円(10-4月)
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(12月 7日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護 1	0 名	要介護 2	3 名
要介護 3	4 名	要介護 4	2 名
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 83.333 歳	最低 75 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	町立上ノ国診療所・町立上ノ国歯科診療所・渡辺病院・函館脳神経外科
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームおだやか」がある上ノ国町は、日本海に面した漁業と農業の盛んな地域で、町の真ん中を大きな川(天の川)が流れる自然豊かな所である。事業所は国道沿いに位置しているが、自動車の音などはほとんど気にならない場所である。今年開設したユニットにはこの事業所が持つ専門性を活かすためにリハビリ専用室があり、理学療法士も採用して更なるリハビリの充実に努め、事業所の理念である「寝たきりに・・・しない、させない、ならせない」を確実に実践している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題である運営推進会議開催については、2ヶ月毎に様々な立場の方を迎えて開催し、改善に繋げている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	始めに担当職員が項目を分担して行い、それを全職員で検討し、管理者がまとめている。自己評価に取り組むことにより日々のケアの振り返りの機会となり、マンネリ化を防ぎ質の向上に繋げている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	運営推進会議で出席者から出た要望や意見、アイデアなどを取り入れ運営に反映している。また、課題があった時にはカンファレンスや職員会議で検討し改善に繋げている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	内部・外部に苦情申し立て機関を整備し、その取り扱いについては運営規定、重要事項に明示している。家族の訪問時にさりげなく声がけをして、気軽に話せるような雰囲気作りに配慮している。表出された意見は職員会議で話し合わせ運営に反映している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の行事に参加することはもとより、歌や踊りのボランティアを積極的に受け入れたり、「えびねラン」愛好者の方が苗を植えてくれたり、植え木の剪定をしてくれたりと庭造りへの協力があり、利用者の豊かな生活を支え、事業所と地域が一体となった取り組みが充実している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初に運営者と管理者が事業所の有する専門性を活かすことと、地域の人々との交流を謳った事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者、管理者、職員は理念を掘り下げ、日々具体的なケアについて話し合い、実践に繋げるための努力をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加することはもちろんのこと、保育園児が散歩の途中に立ち寄ったり、歌や踊り、庭造りなどのボランティアも積極的に受け入れて、地域交流を盛んに行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は担当職員3名が項目を分担して行い、その後全職員で検討し、管理者がまとめている。日々のケアの振り返りの機会とし、課題は改善計画を立て、その実施に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な立場の方をメンバーに迎え、2ヶ月に1回開催している。事業所からの報告、出席者からの質問、意見など通常の議題の他に、インフルエンザや選挙などその時々身近な話題を取り上げ会議運営を行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町村担当者とは密に連絡を取るよう努め、連携を深めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便り「かわらばん」を発行すると共に、利用者個々にスナップ写真や職員のメッセージを添えたお便りを出して報告している。金銭報告は毎月、預かり書の原本と領収書などを送付して行っている。体調不良や精神的不安定時、病院変更時などは随時家族と連絡を取り合っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や電話の際など、気軽に何でも話してもらえる雰囲気作りに配慮すると共に、内部・外部に苦情申し立て機関を整備し、表出された意見は速やかに検討を行い運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の性格や技量を考慮して、利用者の細かな部分にも目が行き届くように、利用者担当制をとっている。離職する場合は理由をはっきりと話している。今までは混乱は見られない。利用者は離職した職員に会いたい時には本人の了解を得て自宅を訪問している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は現場職員の外部研修への受講機会を確保するために、勤務調整をするなどしてバックアップ体制を整えているが、今はまだ研修会への参加は少ない。また、内部研修を充実させるために保健師からアドバイスをもらい、参加しやすい工夫や配慮をしている。職員が働きながら資格取得に挑戦できるよう取り組んでいる。	○	研修後は報告書をまとめて全職員が閲覧できるようにして情報の共有に努めたり、今後は現場職員の学びの機会を多く確保する取り組みに期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム協議会に加盟し、運営者や管理者は研修会に参加し、報告会を行い全職員で情報を共有している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族との面談や職員が自宅訪問を繰り返すなど馴染みの関係を築くと共に、利用開始前にフェイスシートを参考にして全職員で話し合いを重ね、暫定ケアプランを作成している。居室には使い慣れた家具や調度品、思い出の品物を徐々に運び入れ、今までの生活環境と変わらないように配慮して、安心して暮らせるような雰囲気作りをしている。		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の生活歴を大切に、言動や表情などから根本にある苦しみ、喜び、こだわり、楽しみ、哀しみ、不安などを察し、穏やかに寄り添い、共に支え合い学び合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声がけを大切にし、特に買い物などの一対一のコミュニケーションをとり把握に努めている。意思疎通の困難な方にはアイコンタクト、動作、表情から推し測っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からはさり気ない会話の中から思いや意見を引き出し、医師からは受診の都度、意見を聞き介護計画に反映させている。カンファレンスは担当者の出勤日に開催され、意見交換、モニタリングを行い介護計画の作成に繋げている。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用開始前に暫定ケアプランを作成し、その後1ヶ月でモニタリングをし、3ヶ月後に見直しをしている。計画見直しは利用者の状態変化時の他、変化の兆しがみられた時など即座に対応策を検討し新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や本人の状況や要望に応じて、通院、生活保護費の受け取り代行、理・美容院への送迎、自宅訪問など可能な限り取り組んでいる。リハビリ専用室があり、リハビリの往診支援も行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回から2回の定期的な受診支援と共に、本人や家族と相談しながら適切な医療が受けられる体制を確保している。体調の変化時は様子を見ながら家族と連絡を密に取り、早めの受診支援に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	以前に看取りの経験がある。終末期ケア対応指針を定め、入居前に本人、家族、事業所間で話し合い合意を重ねている。状態の変化に応じその都度同意書を交わし、医師から適切な指導を受ける体制を整えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は日々の言葉遣いや衣服の着脱の際の関わり、日誌などの記録も丁寧な言葉を使い、あらゆる場面で誇りやプライバシーを損ねないようにきめ細かに配慮している。職員会議などお互いにチェック合っている。書類などは事務所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一人ひとりの個性と体調に合わせ、夜不穏になる利用者のために遅番のスタッフの出勤時間を調節するなど、その人らしい生活が送れるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや機能によって2種類の食事を提供している。野菜の下ごしらえや後片付け、食器拭きなどを職員と一緒にしてもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望がない場合は受診の前日、火曜日と金曜日とし、午後からのなるべく遅い時間帯にゆっくりと楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々の能力や得意を見極め、草むしり、雪かき、洗濯たたみなど力を発揮する場面を作っている。年間行事計画を立て、地域や近隣の町のイベントに参加し外部との接触の機会を多くすると共に、毎日歌ったりゲームをするなど、気晴らしや楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	基本的には買い物や散歩など本人の希望に合わせて、一般家庭と同様の外出支援をしている。月に2回程定期的に行事的な外出を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけていないが、夜間は防犯のため施錠している。居室は鍵が付いているが施錠する利用者はいない。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年2回、日中帯・夜間帯を想定した訓練を実施している。避難方法のアイデアを職員で出し合ったり、地域の方々の参加を得て実践的な訓練が行われている。緊急時対応マニュアルや消防署とのオンラインシステム、スプリンクラーなどを整備している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は個々に極端な偏りがないように1日1000cc以上確保できるように毎日記録をつけ、個々に合わせた支援をしている。定期受診時に一人ひとりの栄養状態を確認し、変化があった時は役場の栄養士に指導を仰ぐなど連携を密に取り、個人の状態に応じた食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は自然で心地良い光が入り、不快な音や臭いもなく清潔が保たれている。季節に合ったインテリアが飾られ、居心地良く過ごせるように工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の協力を得て、馴染みのタンス、ソファ、ベッド、思い出の品、写真などを利用開始前に徐々に運び入れ、居心地良く安心して暮らせるように配慮がなされている。		

☐ は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。